

令和3年10月25日

学校評価特集号

第1号

～ 振り返りの第一歩～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田 和三

保護者の皆様には、平素より、本校の教育活動に多大なご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

岩倉南小学校では、「自ら学び 心豊かに たくましく生きる子」の育成に向けて、日々の教育活動を進めています。今年度は「自ら考える子」の育成を重点目標に、具体的な取組を進めています。

また、「重点目標は達成できそうか」「目標達成に向けた取組はこのままでよいのか」を振り返り、改善を図るようにしています。

振り返りを行うためには、何らかの手がかりが必要です。

手がかりとしては、どのようなものが考えられるでしょうか。

例えば、学力の向上を測る手がかりとしては、学力・学習状況調査やジョイントプログラムなどがあります。一方で、これらの結果は学力のある側面を捉えていると考え、これだけでは不十分です。そこで、

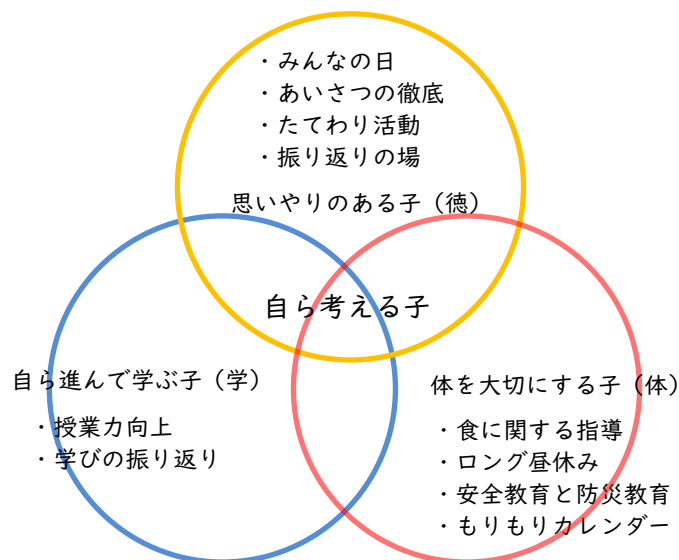
別の手がかりとしては、日々の子どもの姿や子どもの声なども考えられます。また、7月に実施した「みなみアンケート」を通じて子どもたちや保護者の皆様の声を聞くということも一つです。

わたしたちは、様々な手がかりをもとに振り返りを行い、それを、家庭や地域の皆様と共有することで、学校評価をよりよいものにしていきたいと考えています。

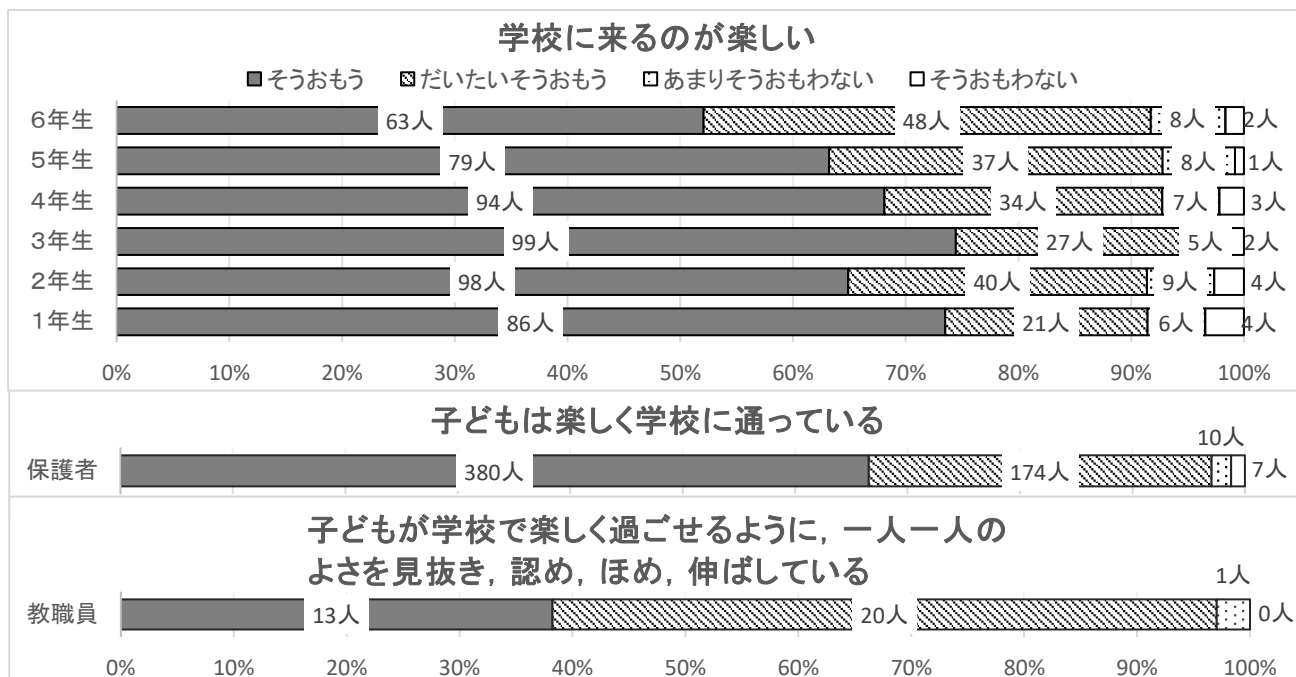
「学校評価特集号」では、数週にわたって、各種調査の結果や「みなみアンケート」の結果、子どもたちの声や姿、保護者の方の声などを少しずつ紹介していきます。そして、それらを踏まえた振り返りをお伝えしていきます。

初めての試みですので、どうなるかやってみないと分からない部分もありますが、しばらくお付き合いいただけますと幸いです。

自ら学び 心豊かに たくましく生きる子の育成
～笑顔 かがやく 岩倉南の子～

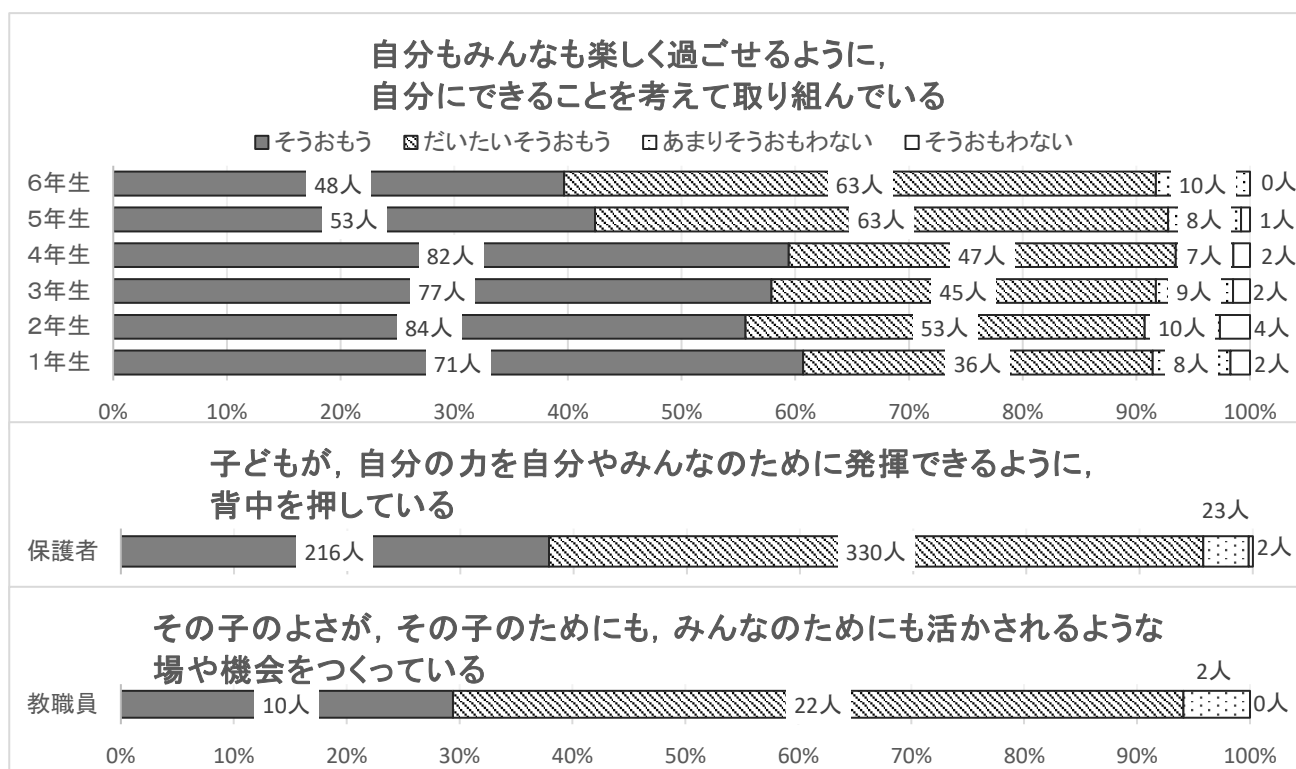


～重点目標「自ら考える子」の育成や、「思いやりのある子」（徳）の育成に関して～



上のグラフは「みなみアンケート」の結果です。

5月に行われた学力・学習状況調査（6年生対象）の質問紙調査では、「学校に行くのは楽しいですか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合は、全国平均・京都市平均のいずれも上回っていました。また、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合も、全国・京都市平均のいずれも上回っていました。



保護者の方からも、みなみアンケートの自由記述を通して声をいただいています。

- ◇ コロナ禍ではありますが、それを忘れてしまう程、子供はとても楽しく登校しています。その分先生方は大変な気苦労をされているんだらうと思うと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いつもありがとうございます！（５年）
- ◇ 毎朝安心して子供を送り出せる、そんな気持ちになれる教育活動を実施されていると思います。有難うございます。（２年）
- ◇ 先生は生徒一人一人の頑張りをしっかり見て、自ら考動できるような働きかけをしてくださっていると感じています。（５年）
- ◇ 上級生や卒業生が下級生を意識してくれるので、登下校が安心してできます。学校での教えからの行動と思われるので、今後も変わらない教育方針で将来、我が子も助け合うことのできるたくましい子に育つのを期待しています。（１年）
- ◇ コロナで大変な状況が続く中、いつも学校を楽しみにしている子どもを見るたび、こちらも気付くことがたくさんあり、本当に感謝しています。（５年）
- ◇ すごく楽しく過ごしています。制約のある中、子どもたちが楽しめるよう、成長の場を与えてくださっている先生方にとっても感謝しています。できない事に目を向けすぎず、学校という場だからこそ出来ることを存分に楽しんでもらえたらと思っています。（６年）
- ◇ いつも細やかに子どもに寄り添った対応をしていただき感謝している。（２年）
- ◇ もう少し子供一人一人に目を向けて一人一人に合った対応をしてもらいたい。（１年）
- ◇ ６年間で初めて学校が楽しいという言葉聞いた気がします。話を聞くとところによると、やはり担任の先生の存在が大きいのだなと強く感じています。最後の１年、一日一日を楽しんで過ごせてもらえたらなと思います。（６年）
- ◇ 我が子がいつも張り切って学校に出かけて行き、「楽しかった～！」と帰って来る様子を見て、ありがたく思っております。（３年）
- ◇ 新任の先生で親子ともに最初は心配しましたが、スポーツが得意で休み時間に本気で一緒に遊んでくださるそうで、そこから子どもは先生のことを信頼するようになりました。お忙しいはずなのにありがとうございます。（３年）
- ◇ 担任の先生は休み時間に遊んでくれたり、失敗もきつく叱らずにいて下さるので、萎縮せずに居られるようです。内面が繊細な子なのでありがたいです。（３年）

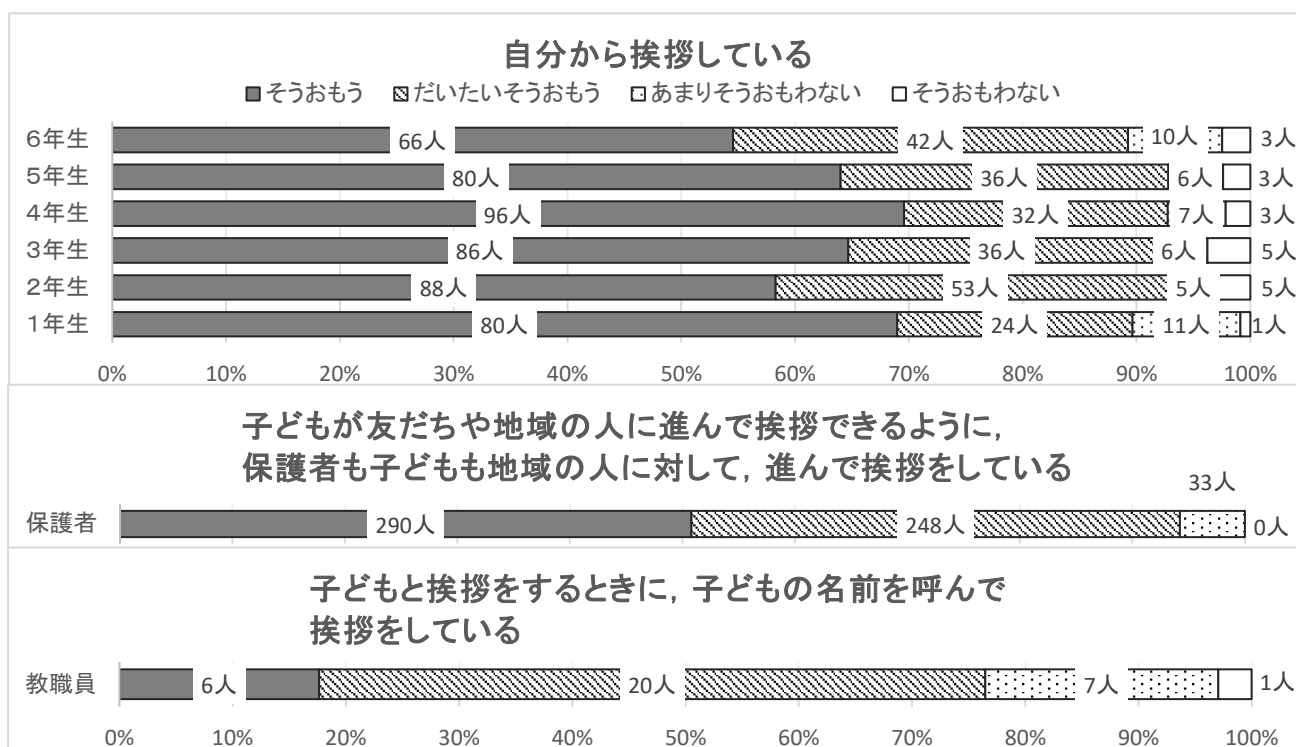
一方で、子どもへのアンケート結果を見ると、学級に２～３人は、「学校に来るのが楽しいと思わない」子どもがいることがわかります。

「自分が大切にされている」という実感があれば、子どもたちにとって学校が楽しい場所になるはずです。

一人一人が、「自分は大切にされている」と感じられるように、「心の面での安心・安全の実現」「つながり合い・認め合いの場の設定」「自分の力を発揮できる機会の保障」の３つを意識して、教育活動を展開していきます。

次は、挨拶についての保護者の方からの声とアンケートの結果です。

- ◇ PTA 活動で学校に伺う際、教職員の皆さんはもちろん、すれ違う子どもたちも挨拶してくれて、とても素敵だなと感じています。挨拶でお互い気持ちが清々しくなれるということを、これからも引き続き子どもたちに教えていただきたいです。(2年)
- ◇ 先生方が子供の名前を呼んで挨拶しているのは素晴らしいと思いました。(1年)



自由記述の中で「先生方が子供の名前を呼んで挨拶していることは素晴らしい」と書いていただけたこと、嬉しく思います。

実は、わたしたち教職員は、「できる限り子どもの名前を呼んで挨拶しよう」と申し合わせています。児童数 800 人を超える学校ですから、簡単なことではありません。できていない場面の方が、まだまだ多いかもしれません。

ですが、子どもは大人の鏡ですから、挨拶に関しても、この少しの積み重ねが、子どもたちの姿に反映されると信じています。

子どもたちも大人も、お互いの名前を呼び合って挨拶している。

数年後には、そんな学校、そんな家庭、そんな地域になっていることを想像すると、ワクワクしませんか？

令和3年10月28日

学校評価特集号

第2号

～「みんなの日」の積み重ね～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田 和三

～重点目標「自ら考える子」の育成や、「思いやりのある子」（徳）の育成に関して～

今回は、「みんなの日」の様子について紹介します。

「みんなの日」は、人権学習の一環として行っているものです。月ごとにテーマを決めて各学級で学習し、それぞれに学習したことや考えたことを全校で交流しています。

～6月「障害についての理解と認識を深め、互いを尊重し共に成長し合う」ことをテーマにした「みんなの日」を終えて 子どもたちの振り返り～

【1年生】

- ・ おともだちにやさしいひとになりたいとおもいます。
- ・ みんなにやさしいきもちをもって、たすけあいたいとおもいました。
- ・ やさしいきもちをたいせつにしたいとおもいました。

【2年生】

- ・ もう一度考えなおしたとき、かわいそうだと思ってきめつけるのは、目や耳がふじゆうな人をかなしませるかもしれないと思いました。こまっているかわからないのに、かってになにかをするのはよくないと思います。もし、ほんとうにこまっていたら、たすけるし、じぶんもこまっていたら、たすけあいをしたと思いました。
- ・ 1年生もしっかり考えていてすごいと思いました。自分の目の前に車いすの人や耳の聞こえない人がいたらサポートしたいと思いました。
- ・ 3年生の発表を聞いて、車いすのバスケットせんしゅは家族とはなれるのはつらかったと思います。でもそれでもアメリカにいく勇気が心強くていいと思います。

【3年生】

- ・ みんなのいいところを考えようと思いました。同じ人なんていないし、もっと色々な良いところを見つけようと思いました。みんなちがってみんないいと思いました。
- ・ 自分は何もできないと思っていたけど、そんなことないと思いました。いろいろな人がいて当たり前だから、できないことをせめるのではなく、「いっしょにやろう」とか「だいじょうぶだよ」と声をかけていきたいと思いました。
- ・ みんな違うところがあって、いいところが人によって違うのだと思いました。もっと友達のいろんなところを見つけていきたいと思いました。

【4年生】

- ・ 今日、全学年で一緒に考えてわたしたちが目の不自由な人の立場になって考えたように、いろいろな人がいることがわかりました。困っている人がいたら、その時その人に合わせて助け方を工夫したいと思いました。
- ・ 体の不自由な人に対して「してあげる」という考えがあったが、6年生の発言を聞いて「自分ができることをする」という気持ちに変わりました。
- ・ 色々な学年の人の話を聞いて、どの学年も体が不自由な人たちを、それぞれ合った方法で助けていきたいと言っていて、みんな優しい心を持っていると思った。

【5年生】

- ・ 香西選手の学習をして、生まれたときからひざがないことは大変だと思っていたけど、友達の発表を聞いて、障害者だからとても大変という見方をするのではなくて障害者でも健常者と同じように勇気をもってがんばっていると思うといいと思いました。
- ・ ぼくは、障害者にこれまで特別扱いしようと思ったけど、それが嫌だという人がいることを知って相手の気持ちにあった行動や手助けをしようと思った。
- ・ 人の気持ちになって感じてみていうのがいいなと思いました。僕も、人の気持ちになってみてどうしたらいいかを考えられる人になりたいと思いました。

【6年生】

- ・ 私は、1年生から6年生までの発表を聞いて、相手の気持ちになって考えることが大切だと改めて感じました。一人一人のことをよく知って自分と違うところがあっても差別しないということを大切にしたいです。
- ・ 今回の交流をまとめると、身体の不自由な人やある物事が苦手な人は、工夫次第で身体の不自由な人の生活ができるが、勝手に決めつけられるのは誰だって嫌なことだと感じました。
- ・ 自分は何気なく思っている相手は傷つくことがあると分かった。それは、一人一人得意なことが違ったりして同じ人はいないからだと思う。誰でも勇気はもてるので、もてるようにしたい。

この夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。

学習で取り上げた選手の活躍や、卒業生の宇津木美都さんの競泳女子100m平泳ぎでの決勝進出6位という活躍も、子どもたちの励みになったのではないのでしょうか。

～9月「男女平等」をテーマにした「みんなの日」を終えて

子どもたちの振り返り～

【1年生】

- ・ ちがうことはわるいことじゃなくて、じぶんだけのとくべつなんだとおもいました。
- ・ じぶんのすきなところも、がんばっているところもじぶんらしさだとわかりました。
- ・ みんなのすきなものやいろがわかりました。じぶんのすきなところをふやしていきたいとおもいました。

【2年生】

- ・ 一人ひとり自分らしさが大切だとわかりました。人を見ただ目で判断しないで、その人と関わってその人の中身を知ったらいいんだなと思いました。
- ・ 6年生の発表を聞いて、見た目ではんだんすると、その人が男の人でも心は女の人かもしれないから、その人に「男らしくして」と言うときずつくかもしれないと思いました。自分もあい手も「じゆうな心」でいることを大切にして、みとめあえたらいいと思います。
- ・ いろんな仕事があるけど、男だから女だからできないわけじゃないということが3年生の発表でわかりました。自分のやりたい仕事をするのが一番だと思いました。

【3年生】

- ・ ほかの学年もみんな深く考えていた。やっていることは違うけど、みんな同じ意見だったから私も自分らしさを大切にしたいと思った。
- ・ 男らしさ、女らしさではなく、大切なのは自分らしさということがわかりました。自分の好きなところから夢は、広がると思いました。
- ・ 自分らしさというものは自分にとって必要なものだと思いました。



【４年生】

- ・ 自分らしさに自信をもって、おたがいに認め合うことが大切なんだと考えました。自分やみんなのためにできることも大事なことで分かりました。これからも自分らしく生き、私の好きなことを見つけて、夢を広げていきたいです。
- ・ 「自分らしさ」や「自分の好きなこと」に自信をもって、大切にしたらいいんだと思いました。男の子だから、女の子だからではなく、自分の好きなもの、好きなことは、それぞれの気持ちがあるので全て同じという人はいないんだと思います。みんなが尊重し合ったらいいのではないかと考えました。
- ・ 男の子だから何色、女の子だから何色ではなく、それぞれ性別に関係なく好きな色は違うんだから、自分の好きなものに自信を持っていいんだなと思いました。男の子だから女の子だからと私は思っていたかもしれないけど、みんなの意見を聞いて一人一人違うのだから、みんなと同じじゃなくていいんだなと思いました。

【５年生】

- ・ みんなが思う当たり前があたりまえでない人もいます。その人のいいところをなくすようなことがないように当たり前について考え直したいです。
- ・ 自分を好きになることが一番だと思うので、自分のなりたい自分になりたい。自信を持ちたいです。
- ・ 自分らしく自分のやりたいことに自信をもって夢に進みたい。同じ人間だから、性別関係なく自分らしさ、友達らしさを尊重しようと思う。

【６年生】

- ・ 人の「色」を自分の「色」にそめようとするといじめのようなことを生み出してしまふ。人の色をちゃんと受け入れてくれているからこそ、様々な色が混ざった個性的な人が生まれていくと思う。
- ・ 自分らしさを大切にして、周りの人々の気持ちや生き方を尊重することは、どんな人でもこの社会で生きていくためには必要なことだと思いました。
- ・ 自分らしさは人によって違うがその自分らしさを否定せずに認めていける世の中にしたい。また、自分らしさをこれからたくさん見つけていきたい。

学習を通して感じたことや考えたことを伝え合うことも、子どもたちにとっては大きな学びになっているようです。

わたしたちは、この積み重ねが「思いやりのある子」の育成につながっていくと考えています。今年度は、全校児童が一つの場所に集まることが難しいため、「みんなの日」の交流に、テレビ会議を活用したり、６月の反省をもとに９月の進行方法を変えたりと、教職員も試行錯誤しながら取り組んでいます。

令和3年11月4日

学校評価特集号

第3号

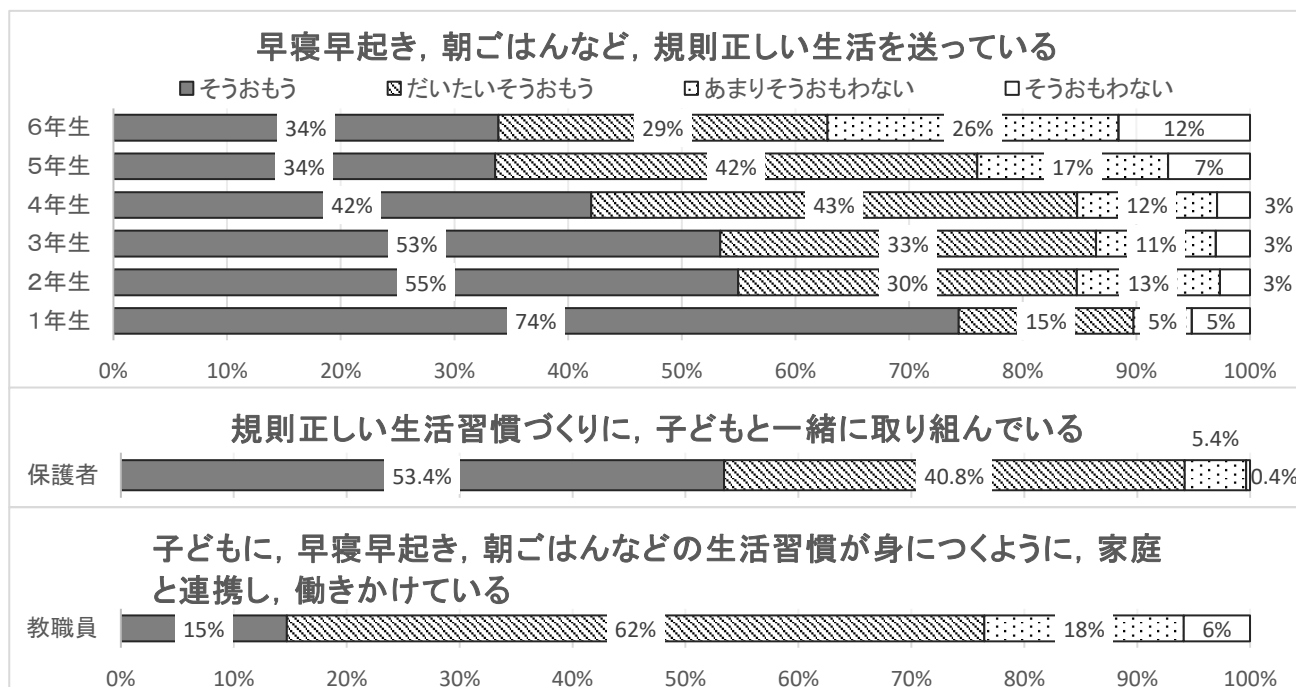
～「もりもりカレンダー」～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田 和三

今回は、「体を大切にする子」（体）の育成に関することをお届けします。

～重点目標「自ら考える子」の育成や、「体を大切にする子」（体）の育成に関して～

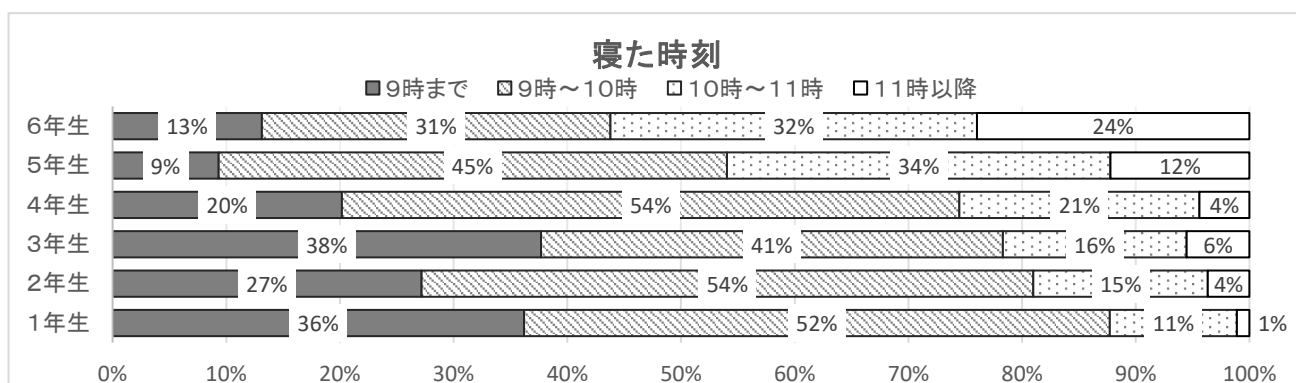
「みなみアンケート」の結果です。高学年になるほど生活リズムが崩れるようです。



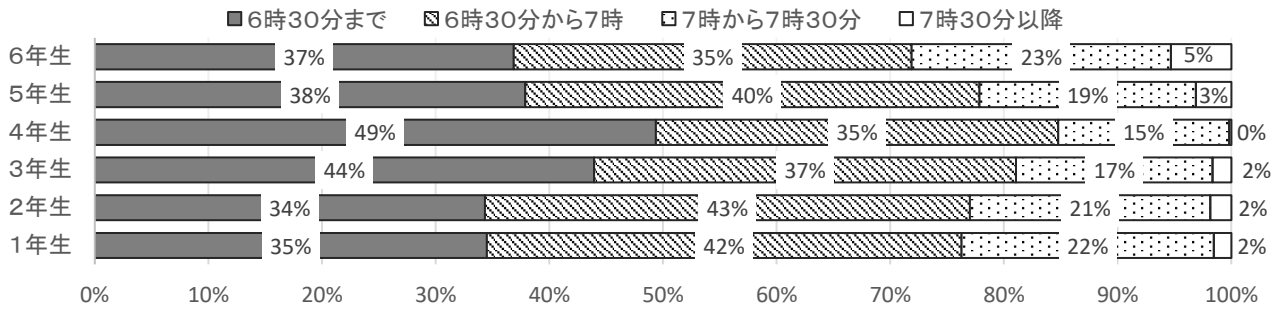
ここからは、「もりもりカレンダー」の結果です。9時までに寝た子たちが多かったのは、3年生でした。学年が上がるにつれて、10時を過ぎてから寝る子が増えています。

人は眠っている間に、体や脳を休めて、調子を整えています。睡眠の時間は、体の元気を取り戻す大切な時間です。小学生は9～10時間の睡眠が必要と言われています。

1～3年生は9時まで、4～6年生は10時までに寝るように心がけてほしいです。



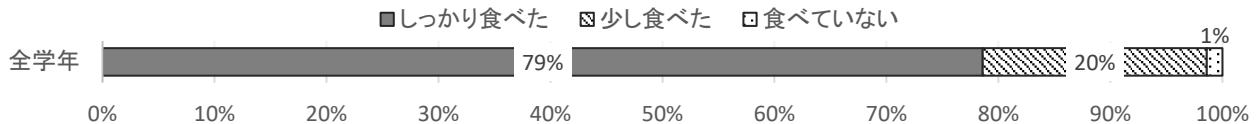
起きた時刻



7時までに起きた子が多かったのは、4年生でした。

人の体の中には「体内時計」というものがあり、朝に目がさめて、昼は元気に活動し、夜は自然に眠たくなる…というリズムをもっています。夜更かしや寝坊はそのリズムをくずしてしまいます。いつも決まった時間に寝て、起きると、リズムが整って、毎日元気に過ごすことができます。

朝ごはん

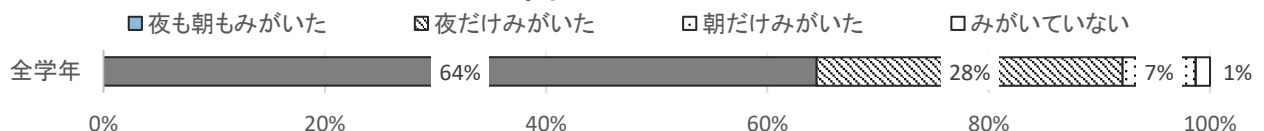


朝ごはんは、学年による差はあまり見られませんので、全学年あわせての結果です。

ほとんどの子が朝ごはんを食べていました。

では、ごはんの内容はどうでしょうか。パンだけ、ごはんだけになっていませんか。肉や魚、納豆や乳製品、野菜や果物などをプラスして、バランスよく食べるともっといいですね。

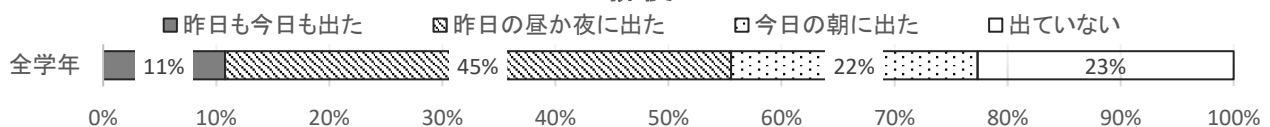
歯みがき



こちらも、全体の結果です。夜も朝もみがいていない子たちが1%，夜か朝どちらかしかみがいていない子たちが35%いました。

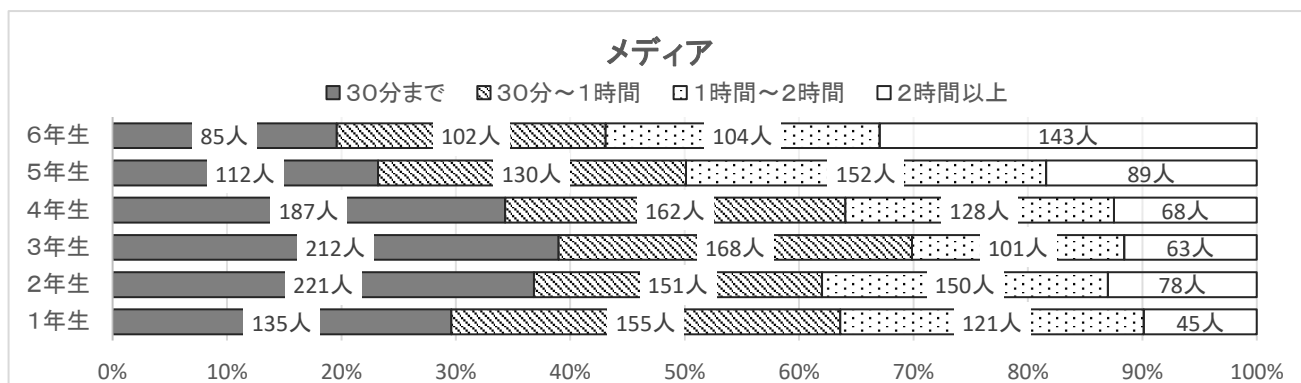
寝ている間は、だ液が少なくなり、むし菌が口の中にたくさん増えます。朝、夜ご飯の後だけでなく、寝る前や起きた後もみがくようにしましょう。

排便



こちらも全体の結果です。出していない人が20%以上いました。

毎日出ている人は、11%です。朝ごはんを食べると、腸がよく動いて便が出やすくなります。朝、学校に来る前、トイレにゆっくり座る時間を作りましょう。



画面を見ている時間が少なかった学年は、3年生でした。高学年になると見る（使う）時間が長くなっています。「1日〇〇分まで見る（使う）」「30分以上見るときは、目を休める」などルールを決めて楽しみましょう。目を休めるときは、遠くの景色を眺めるなどしましょう。

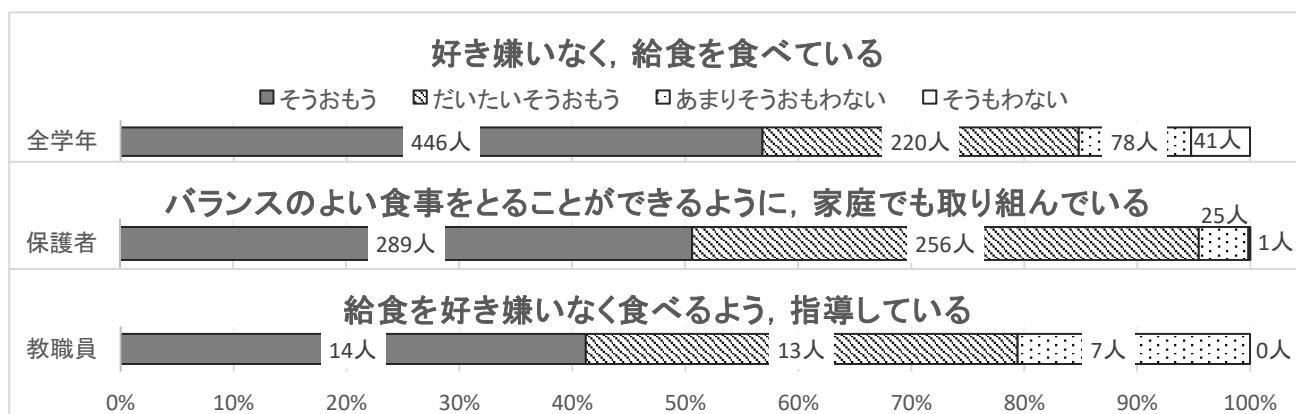
「もりもりカレンダー」での子どもたちの振り返りです。

- ・ これからがんばりたいことは、この4日間のように早ね早おきやテレビ・ゲームの時間などに気を付けて生活したいです。この4日間テレビ・ゲームの時間を減らせてよかったと思います。これからも時間を考えて行動したいです。（3年生）
- ・ 毎日、はやねはやおきを心がけていたけど、なかなかはやく寝られなかったのも、何もしていない時間がもしあったら、その時間を無駄にせず少しでもできることをてきぱきやってねる時間を1分でもはやくしていきたいです。そして、毎日元気に登校したり、遊んだり、健康な日々をしたいです。（5年生）
- ・ 私は普段、あまり生活習慣は気にしていませんでした。でも、もりもりカレンダーが始まったら「ちょっとテレビを見過ぎたかな～」と1日を振り返る時間ができてよかったです。もう少し生活を見直して健康でいよう！と思いました。（5年生）
- ・ 私は5年の時とかに比べてねる時間や起きる時間とかが一緒にできたりして、規則正しい生活を送れたと思います。もりもりカレンダーをやっている時だけじゃなくて、普段の生活から変えて、毎日、規則正しい生活を送れるようにして保健で習ったように、体の抵抗力を上げて病気まで防いでいきたいです。（6年生）
- ・ 毎日、9時から10時にねて、6時30分から7時までに起きられたのでこれからも早ね早起きが続けていきたい。テレビなどの画面を30分見たら、30秒くらい目を離して、遠くの景色を見たりして目を休めて使っていきたいと思う。（6年生）

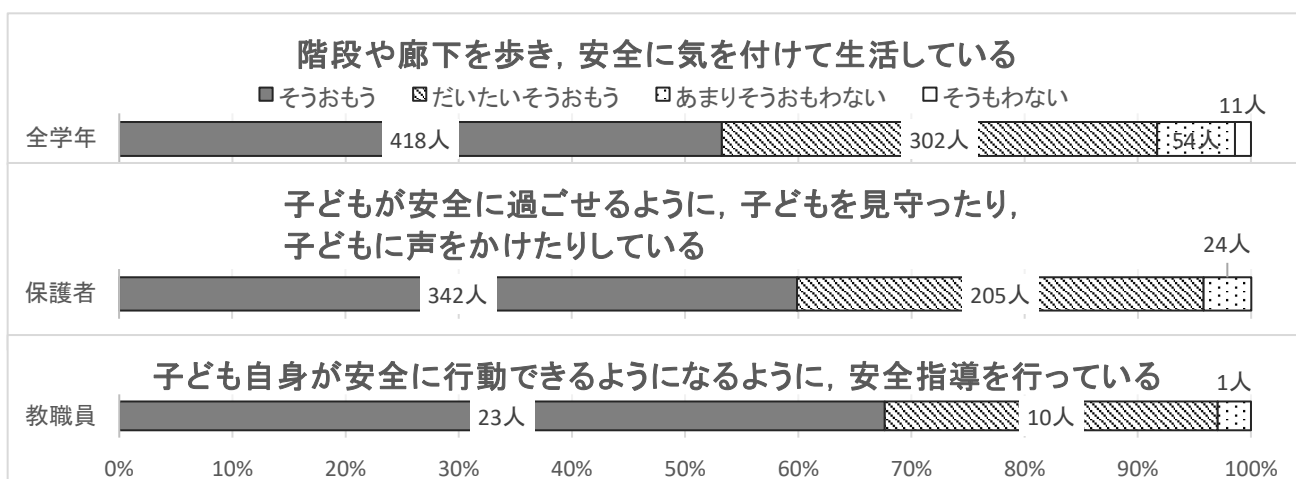
ここまで、「みなみアンケート」と「もりもりカレンダー」の結果をもとに、子どもたちの生活リズムを見てきました。

生活リズムを整えることは、子どもだけでは難しいこともあります。引き続き、各家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

次のページは、食や安全に関しての「みなみアンケート」の結果です。



アンケートの結果を見ると、半数以上の子たちは好き嫌いなく食べているようです。岩倉南小では、「よりよい食習慣を自らつくる力をつける」という目的をもって食の指導に取り組んでいます。将来、健康にすごしていくためにも好き嫌いなく食べることを学校や家庭で伝えていきたいと考えています。



安全面については、次のような声もいただいています。登下校や放課後の安全についての声も届いています。学校の指導だけでは、目の届かないこともあります。ご家庭においても、子どもたち自身が自分やまわりの人の安全を考えて過ごすことができるように、お子たちと一緒に考えていただければと思います。

- ◇ 今回の趣旨とずれてしまうかもしれませんが、雨の日の送迎（特に登校時）による路駐が多く、傘をさしながら路駐を避けるために車道を歩く子ども達が危なくて心配です。路駐に注意などの呼びかけが難しいようでしたら、せめて車が待機できる場所を指定しておいてもらえたらと思います。一番は子どもの安全を重視した対策を希望します。（1年）
- ◇ 放課後なので、学校教育活動に直接関係はないが、近所の子ども達の自転車やキックボード・ジェイボードの乗り方がかなり危なく冷や冷やする。コロナの影響で自転車教室がないことも影響しているのかもしれないが、家庭でも今一度しっかりルールを伝えるようアナウンスして欲しい。（1年）
- ◇ 一年生は特にですが、登下校を見ていると交通ルールを守らない子や車を気にせず道路をふざけて歩く子を多々見かけます。いま一度交通ルールを守る事の大切さを徹底していただけたらと思います。（1年）

令和3年11月10日

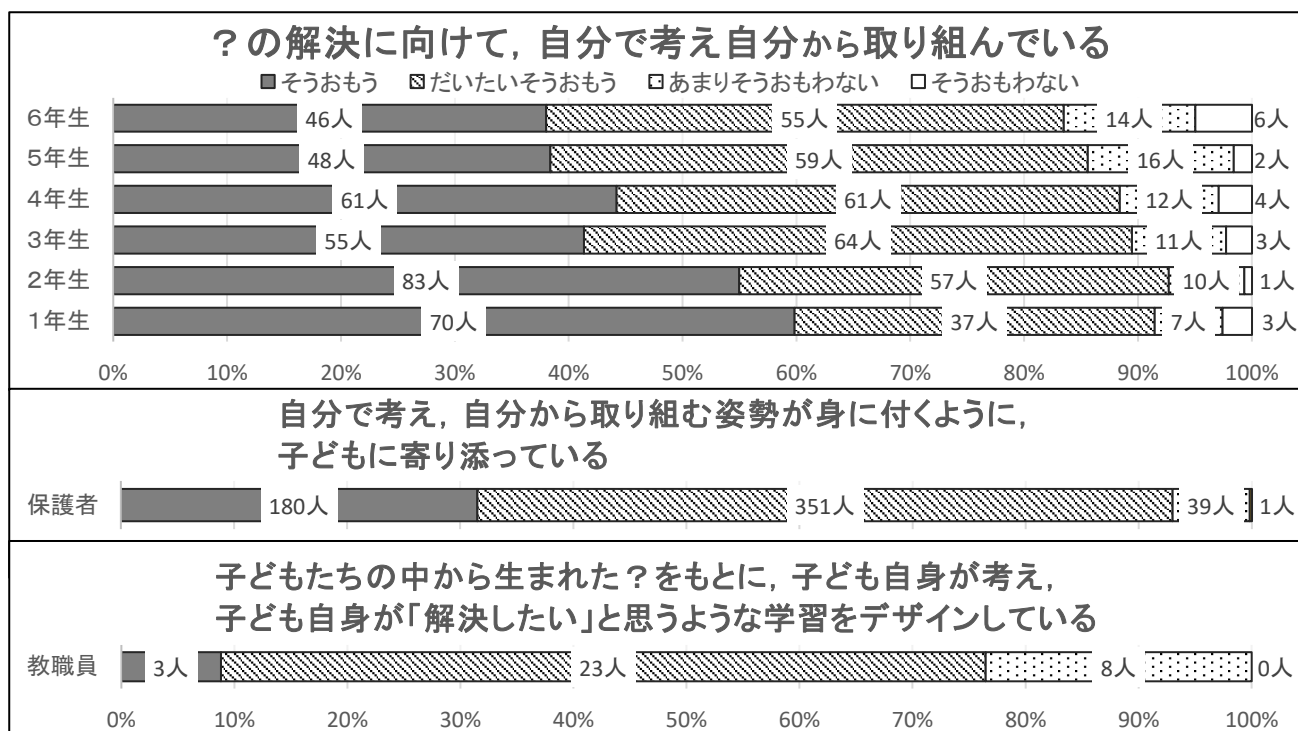
学校評価特集号

第4号

～全国学力・学習状況調査から～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田 和三

今回は、「自ら進んで学ぶ子」（知）の育成に関する内容を中心にお伝えします。
まずは、みなみアンケートから「自ら進んで学ぶ子」の育成に関わる結果です。



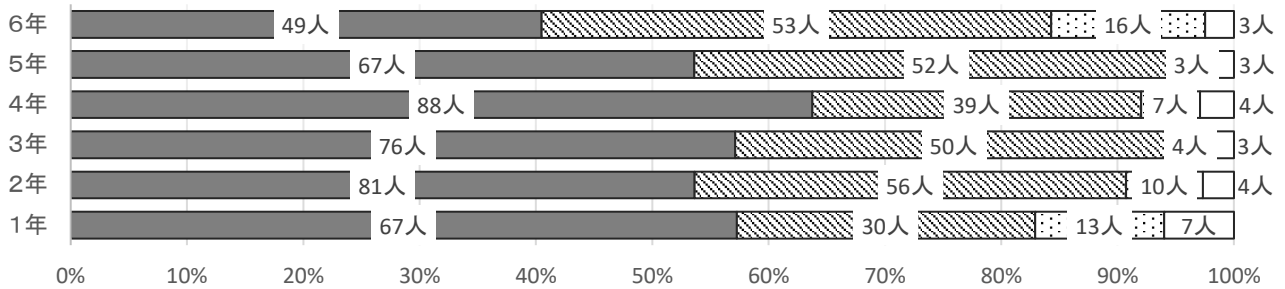
本校では、子どもたちの中にある「えっ！」「どういうこと？」という素朴な疑問を膨らませ、「なぜだろう？ 考えてみたいな！」「どういうことかな？ 調べてみよう！」という探究心が育つように、また、試行錯誤しながら？の解決に向かっていけるように、教員の授業力向上に努めています。

4月に行われた学力・学習状況調査（6年生対象）の質問紙調査では、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して、「当てはまる」が約22%、「どちらかといえば、当てはまる」が約50%でした。7月に実施した「みなみアンケート」の6年生の結果を見ると、ほぼ同様の質問に対して、「当てはまる」が約38%、「どちらかといえば、当てはまる」が約45%で、ポイントが上がっています。

6年生だけを対象にしていること、質問が一言一句同じではないことなど、考慮すべき点がありますが、授業力向上を目指して取り組んできたことが、子どもたちの答えにも表れているのかもしれません。

学校で学んだことを、普段の生活につなげて考えようとしている

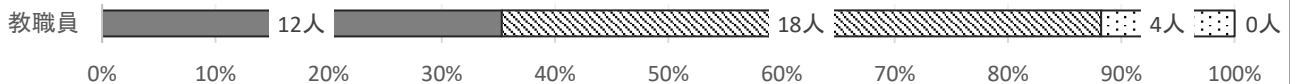
■そうおもふ □だいたいそうおもふ □あまりそうおもわない □そうおもわない



学校での学びが学校以外の場面でも活きるように、子どもに声をかけたり働きかけたりしている

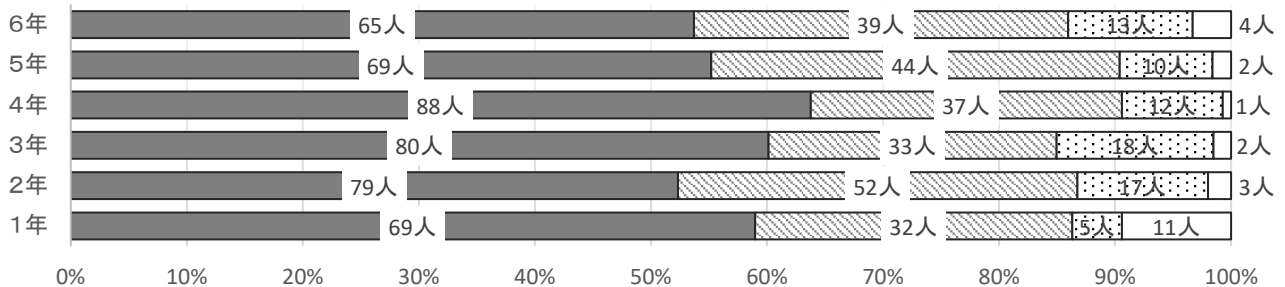


学校での学びが学校以外の場面でも活きるように、子どもに声をかけたり働きかけたりしている



友だちと考えを伝え合うことが好きだ

■そうおもふ □だいたいそうおもふ □あまりそうおもわない □そうおもわない



子どもとコミュニケーションを図るときは双方向のやりとりを意識している



子どもたちが自分の考えを誰かに伝えたいくなるような学習を展開している



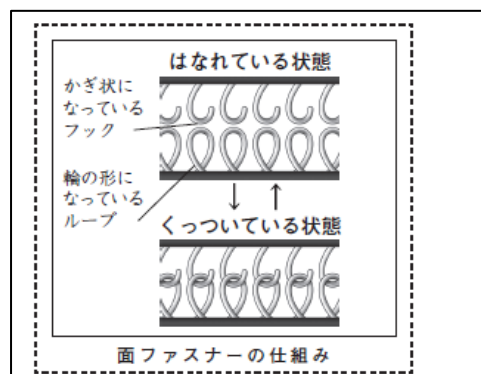
学校では、対話を通して子どもたちの考えが深まるように授業をつくっています。ですが、時には、対話そのものが目的になってしまい、「もっとこうすればよかった」とわたち教員が反省することもあります。友だちと考えを伝え合うことで、自分もみんなもよりよく変わったという実感をもてるような授業を目指して、引き続き努力していきます。

続いて6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」の結果と分析をお伝えします。国語科では、どの問題においても、正答率が全国平均を上回っていました。

算数科でも、どの問題においても、正答率は全国平均を上回っていました。

そこで今回は、正答率だけでなく子どもたちの誤答例ももとにして、子どもたちが何をどのように考えて間違ったのか、そして、そこからどのような学習の工夫が考えられるのかを分析していきます。

国語科では、文章と図を結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題で課題が見られました。全国での正答率は約 35%, 本校の正答率は約 50%です。



面ファスナー
面ファスナーは、かざやくつとして使われています。簡単
することができ、とても便利
面ファスナーは、一九四八年
ごとがきっかけで開発されまし
山に登ったジョルジュ・デ・メ
ゴボウの実がたくさんついて
不思議に思い、その実を持ち帰
みると、ゴボウの実は先の曲が
いることがわかりました。その
いたのです。このことをヒン
数年後、特殊な素材を使い、面

この問題では、文章と図の両方から必要な情報を見つけて書きまとめることが求められています。ですが、誤答例としては、文章から見付けられる情報しか書きまとめていないものが最も多く、3割以上ありました。

このような解答をした子たちは、A：図からも言葉や文を取り上げて書くという条件を見落としていた、B：図がどこを指しているかわからなかった、C：図は見たもののそこから何を取り上げたらよいかわからなかった、D：図から見付けたことをどのように文章にまとめたらよいかわからなかった、等の可能性が考えられます。

Aについては、何を問われていてどのように解決するのかを子どもたちと一緒に考えることで、Bについては、図や資料の表題を確かめることで、Cについては、文章と図に共通するキーワードを○で囲んだり→を使って関連させたりすることで、Dについては、まずは図に解説されていることをそのまま文章に表し、次に不要な言葉を削ることで、必要な情報が詰まった文章が書けるようにしていく、等の学習の工夫をすることで、乗り越えられるようにしていきたいと考えています。

算数科の問題です。

図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。
求める式と答えを書きましょう。

式 $3 \times 4 \div 2 = 6$ 又は $4 \times 3 \div 2 = 6$ 答え 6cm²

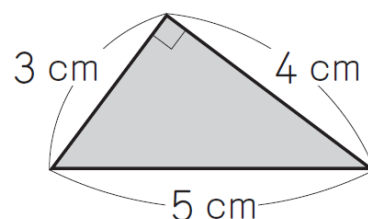
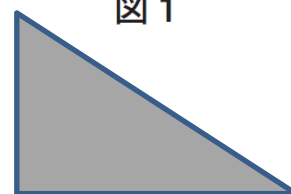


図1



よく見る直角三角形

正答率は本校で71%, 全国で約55%でした。

では、子どもたちはどのような誤答を考えたのでしょうか。

最も多かったのは、 $3 \times 4 \times 5$ という式を立てている例でした。このように考えた子たちは、A：公式を忘れてしまったので、示されている数をそのまま掛けた、B：授業や教科書でよくみる直角三角形の表し方と違ったので戸惑ってしまったのかもしれません。

Aについては、なぜそのような公式になるのかを理解する必要があります。算数の教科書は、それまでに学習したことを手掛かりにして、新たな問題を解決することができるようにつくられています。直角三角形の面積であれば、「長方形の面積を求めて半分にする」

と考えることができます。平行四辺形やひし形の面積も同様に、それまでに学習したことをもとにして考えることができます。これまでの学習をもとにして子どもたちが考え、話し合うような授業を行うことで、公式を知っている・覚えているという状態から「なぜそのような公式になるのか」を理解して、活用できる状態にしていきたいと考えています。

また、Bのような子たちもいるでしょう。ですが、いつでも、欲しい情報だけが見やすいかたちで示されているとは限りません。今回の問題のように、回転させた状態や不要な辺の情報をあえて示した状態で見せたりすることも、ときには必要かもしれません。丁寧にやりすぎることで、子ども自身が考える機会を奪わないようにしたいです。

「自ら学ぶ子の育成」について、保護者の方から次のような声をいただきました。

宿題の出し方についてのご意見もあります。自分で計画を立てて配分する力をつける、毎日続ける力をつける、その日に学習したことを復習する習慣をつける等、どのようなことをねらいとするかによって、方法も変わってきます。学年や子どもたちの様子に応じて宿題の出し方を考えていますが、宿題そのものが目的とならないよう、宿題を通してつけたい力を、子どもたちとも共有していきたいと考えています。

- ◇ これからも子どもの自主性をのばす取り組みに期待しております。(5年)
- ◇ 毎日楽しそうに通っています。勉強も受け身ではなく、自分から学ぶ力がついていると思います。(5年)
- ◇ 勉強が苦手な子ですが、スモールステップで出来た事を認めてくださって、本人の諦めない気持ちが強くなったように思います。ありがとうございます。(1年)
- ◇ 宿題の出し方を、1週間分を月曜に出す方法を、岩倉北小学校ではやられていると聞きました。自分で配分する練習にもなりますし、習い事で忙しい日も宿題があるためにとても疲れている時もあるので、その辺もコントロールできて良いと思います。(4年)
- ◇ 学習した事が定着するように、ミニテストなどを毎日やって欲しい。(3年)
- ◇ 自ら学ぶ姿勢を先生が育てくださっていると思います。(6年)
- ◇ 学校の様々な取り組みに子供も積極的に参加し毎日楽しく通わせて頂いております。ありがとうございます。勉強だけでなく色々な体験から学ぶ場を作っていただき、親子共々、今後も楽しみにしております。(2年)
- ◇ コロナ禍でも工夫をこらして授業してくださってありがとうございます。(6年)
- ◇ コロナ禍の授業の工夫というところで、2年目に入り色々なやり方が浸透してきてなのか、今年の授業は去年より楽しいと言っているものも多いので、制約が多い中尽力されている先生方には感謝しています。(3年)
- ◇ 先の見通せない状況が続く中で、様々に工夫を凝らして子供達の学びの機会が失われないよう努めていただき、感謝申し上げます。(2年)
- ◇ 先生が熱心で宿題ノートへのコメントも丁寧でありがたいです。コロナ禍で大変ですが、よく考えてやっていただいていると感じます。(2年)
- ◇ 副教科についてですが、副教科はその子により得手不得手が出やすく、不得手の場合、イジメにつながりやすいので、結果で評価せず、もっと大らかにプロセスで評価してほしい。たとえば美術や図工は、一年生から専門の先生を入れて個性的な物や一生懸命取り組めば丸としても良いのでは。一年生から。(3年)

令和3年11月16日

学校評価特集号

最終号

～自ら考える子を目指して～

京都市立岩倉南小学校
校長 石田 和三

学校評価特集号も、今回で最終回です。

まずは、「みなみアンケート」に寄せられた声から、まだ紹介できていないものです。本校教育活動へのご理解とご支援の声、本当にありがとうございます。

- ◇ 今年もまだ以前のようにイベントなどが行えないことは承知しております。先生方がその中で色々と考えてくださっていることに感謝しています。(3年)
- ◇ コロナで制限のある中、学校活動を自粛するばかりではなく、出来る範囲で活動や行事をして下さることに感謝しております。(4年)
- ◇ コロナ以降、常に学校の先生方や職員の方が子供たちのことを考えて色々試行錯誤してくださっており、とても感謝しています。何かしらの判断の際にも、保護者の気持ちにも配慮された通知がされていて不安要素が少なくありがたいです。(6年)
- ◇ コロナ禍で何かと対応が大変かと思いますが、現状を早目にお知らせ頂いているので、助かっています。ありがとうございます。(5年)
- ◇ コロナ禍の中、子供達の成長を一番に考えて下さり、感謝の気持ちしかありません。様々な制限がある中、先生方のご努力により、たくさんのよい経験をさせていただいてありがとうございます。(4年)
- ◇ リコーダーやプールなど、早い段階から工夫して取り組んでいただきありがとうございます。(3年)
- ◇ 岩倉南小学校の教育方針、校風、校長先生の考え方がとてもよいと思います。担任の先生も本当に熱心に子供を見守って下さりいつも感謝しております。(1年)
- ◇ 今できることを最大限に考えて実現して頂き本当にありがたく思っています。短縮形であっても行事ができるのはうれしいです。(5年)
- ◇ 最近、うさぎが仲間入りした事をととても嬉しそうに話してくれました。ありがとうございます。(3年)
- ◇ 社会情勢にあわせていろいろ考えてくださったり、日々、子どもの視点で対応くださったり、感謝しております。(1年)
- ◇ 制約のおおいなかでも、楽しく通えているのは、先生方の努力の賜物だと思っています。ありがとうございます。(6年)
- ◇ 先日は花背山の家宿泊学習を実施して下さり、ありがとうございました。事前にいただいたお便りで、宿泊学習の意義や、物理的に延期が無理である事、また現在の状況の中、感染防止が可能と判断された理由等、お示しいただいた事を感謝いたします。子ども達の事を第一に考えていただいている誠実なご姿勢がとてもよくわかりました。ありがとうございました。(5年)

学校評価とは、簡単に言えば

目標を達成するための取組を振り返り、改善すること

です。「アンケートをして結果を公表しておしまい」が学校評価ではないのです。

わたしたち教職員は、夏休みの時間を使って、「目標を達成するための1学期の取組はどうだったのか」を振り返ってみました。振り返りにあたって、あらためて「自ら考える子」とは、子どもたちのどういう姿をイメージしているのか、教職員でそれぞれの頭の中に描いている子どもたちの姿を共有しました。あわせて、そのような姿を目指して、1学期に進めてきた取組を学年や学級を越えて交流しました。



取組を交流する中で、「そもそも学校は何のためにあるのだろう」「学校は何をすることだろう」という問いにも立ち返りました。

「人との関わりの中で学ぶところ」「自分もみんなも幸せになるための生き方につながる問いを探究するところ」「共に学ぶところ」など、教職員一人ひとりが考える「学校」についての意見も交流しました。教職員なりの思いを言葉にすると、学校は「自分はどうありたいかを問いながら、自分を伸ばす・共に伸びるところ」です。

そんな学校でわたしたち教職員は、

- ・はてな(?)を自分から見つける姿
- ・はてな(?)の解決に向けて失敗を恐れずにトライする姿
- ・他者と協働しながら、問題解決していく姿
- ・はてな(?)に対して自分なりの言葉で考えようとする姿
- ・自分もみんなも幸せになるために、自分にできることやすべきことを考えて行動する姿
- ・学んだことを、今とこれからに活かす姿
- ・「何のためにやるのか」「なぜやるのか」を自問自答できる姿

をイメージして1学期の教育活動を進めてきました。

子どもたちの姿や各種調査の結果、保護者の声を踏まえて、手ごたえを感じている取組もありますし、改善が必要と考えている取組もあります。

それらを、図の中にも「Keep」「Problem」という形でまとめています。2学期から取り組みたいことについては、「Try」という項目でまとめました。

11/10(水)配布の第4号で、アンケートの項目が一部示されていませんでした。

2枚目上段の保護者アンケート項目は、「学校での学びが学校以外の場面でも活きるように、子どもに声をかけたり働きかけたりしている」でした。すみませんでした。

学習指導要領解説

複雑で予測困難な時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、教育を通してそのために必要な力を育てていくことを重視

学校教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく生きる子
～笑顔 かがやく 岩倉南の子～



自分はどうありたいかを問いながら
自分を伸ばす・共に伸びるところ

京都市 学校教育の重点

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

子どもたち一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、自分とは異なる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えていくための基盤・土台となる「生きる力」を育むことが教育の重要な使命



「自ら考える子」って？

？を自分から見つける子

？の解決に向けて失敗を恐れずやってみる子

他者と協働しながら問題解決していく子

自分もみんなも幸せになるために、できること・すべきことを考えて行動する子

学んだことを今とこれからに活かす子

「何のために」「なぜ」を考えられる子



Keep（よかったこと・続けたいこと）

- ・宿題で計画→テスト→振り返り→練習のサイクルを通して自学の習慣をつける
- ・子どもが困ったり迷ったりしたときに、すぐに答えを示さず「どうしてみる？」と子どもと一緒に考える
- ・「おはよう」「ありがとう」の定着を通して、安心できる学級づくりを進める
- ・学習も遊びも行事も、子どもと一緒に楽しみ、その中で子どものよさやがんばりを認める
- ・叱る基準を明確にすることで、その他のことには、子どもが安心してトライできるようにする
- ・時には、答えのない問いや答えが一つでない問いをみんなで考える
- ・取組の過程を振り返るとともに、これからどうするかを子どもが考えられるようにする
- ・学習のゴールに向かって、子どもが計画を立てる
- ・自分で考える時間、ペアやグループで考えを交流する時間を効果的に取り入れる
- ・こたえだけでなく「なぜそう考えたか」を引き出す言葉かけをする

Problem（改善したいこと）

- ・子どもたちのがんばりをほめるだけで終わることがあるので、認め、そのことによって子どもが充足感や満足感を味わえるようにする
- ・子どもに任せ切れずに、教師側が決めてしまうことがある。何を子どもに任せて、何を教師が決めるのかを、子どもと共有したり基準をもったりする
- ・学習中の話し合いによって、考えを深めるというところまでいたっていないので、コミュニケーションのルールが定着するようにする
- ・学習が「たのしかった」だけで終わらないように、振り返ったり次に活かす場を設けたりしていく
- ・一人一人が考えて行動していても、「何のためにするのか」「なぜするのか」は、全員で共有できるようにする

Try（2学期から取り組みたいこと）

- ・失敗したときこそ、学びのチャンスになるように声をかけたり関わったりする
- ・学習や行事を通して、「何を」「どのように学ぶか」「どのような力をつけたいか」「どうなっていたいか」を子ども自身も考えられるようにする
- ・？の生まれる授業づくり、知的好奇心を揺さぶる授業づくりを行う
- ・振り返りの場を活用して、子どもが自分自身の変容をとらえられるようにする
- ・意見の交流だけで終わらずに、自分にはなかった考え方や経験を他者から学び、自分の考えを再構築できるような話し合いを学習の中に取り入れる
- ・ほめるだけでなく、「認める」ことで子どもが安心してトライできるようにする

このような振り返りに対して、学校運営協議会からいただいたご意見です。

- ◇ 子どもアンケートや保護者アンケートをこのように活用しているということを知らない保護者もいると思う。アンケートの結果や子どもたちの声をもとに教育活動の振り返りを行っていることを、たくさんの保護者に知ってもらえたらと思う。
- ◇ 教育活動が制限される中でも、水泳学習がある日は、「今日はプールに入れる！」と喜んで登校している子どもたちがいる。様々な制約の中で子どもたちは頑張っているの、保護者も地域もみんなで一緒になって子どもたちを見守っていききたい。
- ◇ 「子どもの名前を呼んで挨拶をしよう」と具体的に決めて取り組んでいるのがよい。地域と小学校が連携して重点目標や目標達成のための取組を決めて推進していけると、一体感が出てくるのではないかな。
- ◇ タブレットを使った学習の様子を見て、子どもたちに浸透しているので驚いた。大人なら「できない」となりそうだが、子どもたちの吸収力は高い。「どこでもできる」というメリットを生かして、例えば海外の学校と交流することで、子どもたちにとって外国が身近に、地球が小さく感じられるのではないだろうか。
- ◇ 6年生で100人くらいが11時以降に寝ているのは「遅い」という実感である。勉強が長いと夜型になりがちで、睡眠時間も短くなってしまうのが一般的だが、岩倉南小の場合は早く起きている子も多いようだ。睡眠時間を長くとることができるようにしてほしい。
- ◇ 社会人でも、本当に自分から行動する人は少なく、指示待ちの人が多。これから答えのない社会なので、「自ら考え行動し、答えを出す」ということがとても大事になる。岩倉南小では、そこに力を入れてやっているの、この子たちが社会に出ていくのがたのしみだ。
- ◇ 名前を呼ばれるというのは、認められているということ。名前を呼んでもらえると、子どもたちは「ぼく、わたしのことを知ってくれている」という感覚になると思う。これからもこの取組は大切にしてほしい。

数週間にわたってのおたよりを最後までお読みいただき、ありがとうございました。

これまでの取組を振り返る中で、「自ら考える子」という子どもの姿だけでなく、「自分から学ぼうとする教職員、自分で考えて行動する教職員」という教職員の姿についてもあらためて共有することができました。わたしたち教職員も、学び続ける姿を子どもたちや同僚に映していきたいと考えています。また、運営協議会からのご意見にもあるように、保護者や地域の皆様と協力しながら、子どもたちを育ていきたいと考えています。

本校教育活動へのご理解とご協力を、引き続き、よろしくお願いいたします。

今年度から、保護者アンケートを、回答 Form を使ったものに変更しています。

その影響もあってか、前期の保護者アンケートの回答率は約70%（前年度の前期は約97%）でした。11月末には、第2回のアンケートを予定しています。ぜひ、皆様にご回答いただけますと幸いです。こちらまどうぞ、よろしくお願いいたします。